

## 高齢者とその介護世代の旅行の現状

第一生命経済研究所 ライフデザイン研究本部 研究開発室 水野 映子

秋の行楽シーズン真っ盛り。旅行に出かける人も多いだろう。

筆者は以前、介護を必要とする人々とその介護者の旅行に関する調査を実施し、旅行の実態や旅行に対する意識などを分析した\*<sup>1</sup>、<sup>2</sup>。今回はその背景として、どのような世代の人が介護される側・介護する側になっているのか、そして旅行をおこなっているのかについて述べる。

\*1 水野映子「要介護者の旅行を阻害する要因—介護者を対象とする意識調査から—」『Life Design Report』2012年7月 (<http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/ldi/report/rp1207b.pdf>)

\*2 第一生命経済研究所「家族を介護している800名に聞いた『要介護者の旅行に関する調査』」2012年6月 (<http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/ldi/news/news1206.pdf>)

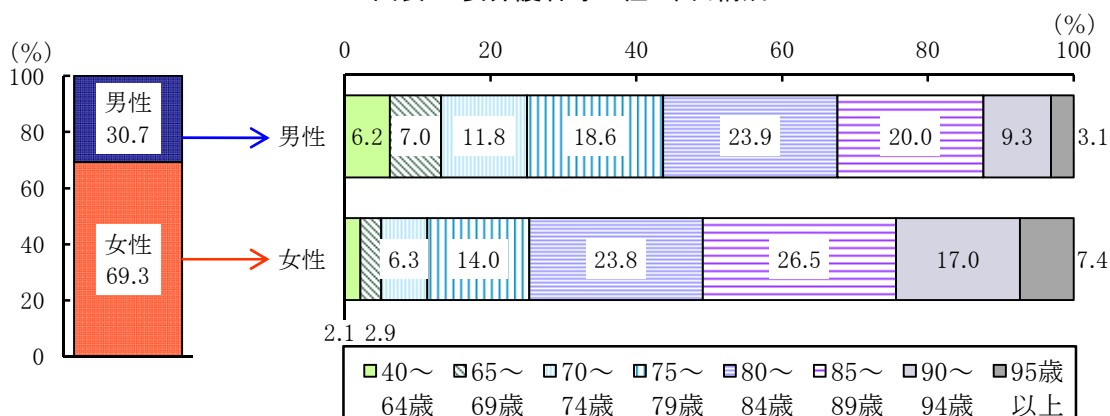
### <介護される世代の多くは後期高齢者>

まずは、介護される人・介護する人の属性を確認しよう。

厚生労働省の「介護給付費実態調査月報（2012年4月審査分）」によると、介護される人、すなわち介護保険制度で要支援・要介護と認定された人（以下、要介護者等）は544万人おり、うち女性が377万人（69.3%）、男性が167万人（30.7%）いる（図表1）。その年代構成をみると、70歳以上の人の割合は女性では95.0%、男性では86.8%であり、それぞれ9割前後を占める。また、後期高齢者と呼ばれる75歳以上の人の割合だけでも、女性では88.7%、男性では75.0%にのぼる。

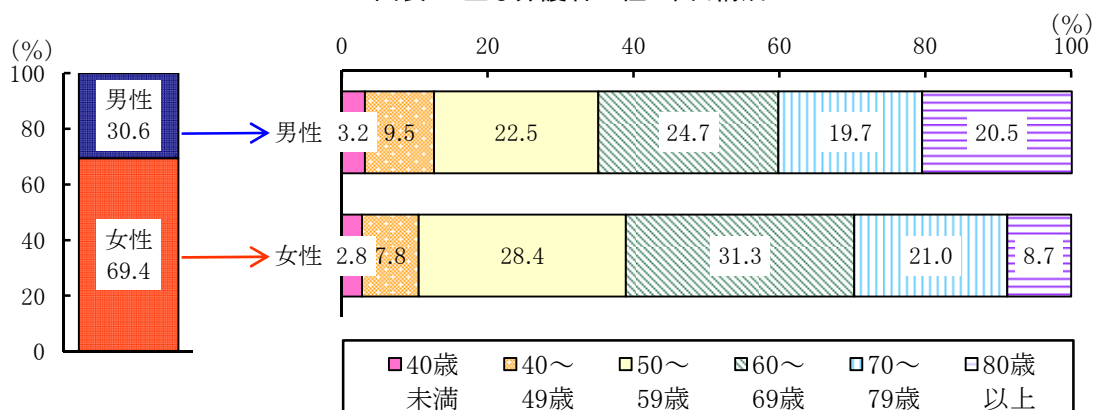
一方、介護する人の属性については、厚生労働省が2010年に実施した「国民生活基礎調査」にデータがある。図表2の通り、要介護者等を主に介護している人で要介護者等と同居している人のうち、女性は69.4%、男性が30.6%であり、介護される側と同様に介護する側でも女性が約7割となっている。さらに男女それぞれの年代構成をみると、女性では50代、60代、70歳以上がそれぞれ3割前後、男性では70歳以上が約4割である。比較的若い世代では親世代の介護を、高齢の世代では同世代、特に配偶者の介護を担っている人が多いと思われる。

図表1 要介護者等の性・年代構成



資料：厚生労働省「介護給付費実態調査月報（平成24年4月審査分）」

図表2 主な介護者の性・年代構成



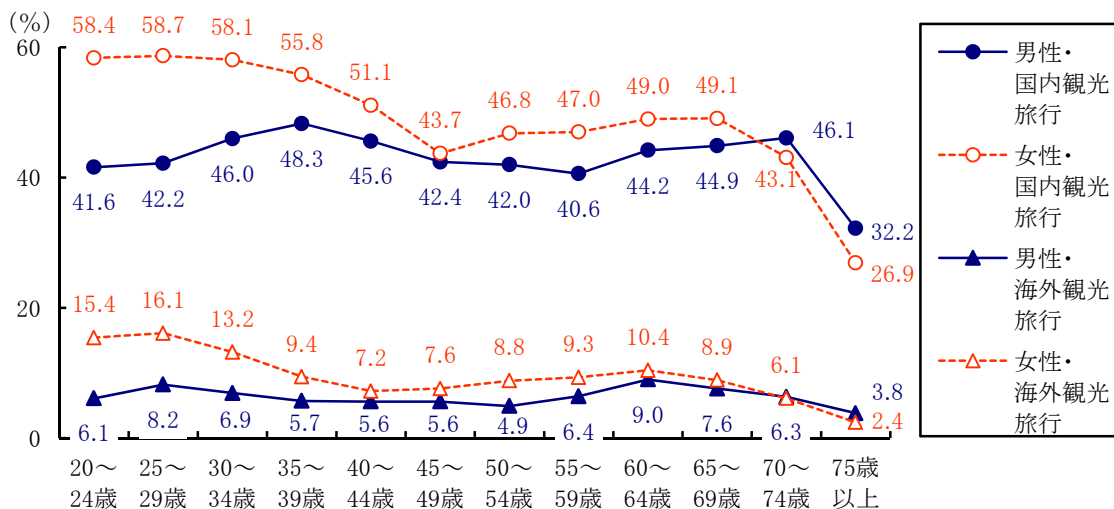
注：要介護者等を主に介護している人のうち、要介護者等と同居している人の内訳  
資料：厚生労働省「平成22年 国民生活基礎調査」

<後期高齢者で低い旅行の実施率>

では、各年代の人々はどの程度旅行しているのだろうか。総務省が2011年に実施した「社会生活基本調査」をもとに、1年間に国内・海外で1泊2日以上観光旅行をおこなった割合（以下、それぞれ国内観光旅行・海外観光旅行の実施率）を図表3に示す。

国内観光旅行の実施率をみると、女性20～44歳では5割台、男性20～74歳および女性45歳～74歳では4割台であるが、男性75歳以上では32.2%、女性75歳以上では26.9%であり、75歳未満と75歳以上で大きな差がある。また、海外観光旅行の実施率も、男女とも75歳以上で最も低い。介護される側になることが多い後期高齢者は、他の年代に比べて観光旅行をあまりおこなっていないことが示されている。

図表3 1年間の国内・海外観光旅行の実施率(性・年代別)



注：20歳以上の人の結果を掲載

資料：総務省「平成23年 社会生活基本調査」

### <介護される世代では健康状態、介護する世代では家庭の事情が旅行しない一因に>

前述の「社会生活基本調査」における国内観光旅行の実施率は、全体では半数弱であった(図表省略)。言い換えれば過半数の人は年に一度も国内観光旅行に出かけていない。その理由は何であろうか。

日本観光振興協会の「国民の観光に関する動向調査」においては、泊まりがけの国内観光旅行をおこなわなかった理由として、「時間的余裕がないから」が男性20～69歳と女性30～59歳では1位、女性20～29歳と女性60～69歳では2位にあがっている(図表4)。また、「経済的余裕がないから」という理由は、女性20～29歳では1位、男性20～59歳と女性30～49歳では2位である。これらの年代では時間とお金が旅行の主な妨げになっているといえる。

一方、男女とも70歳以上では「健康上の理由で」の割合(それぞれ31.7%、46.6%)が最も高い。前出の図表1の通り要介護者等のほとんどが70歳以上であることを考えると、健康状態が悪くなり介護が必要になったことによって旅行に行けなくなる人も70歳以上では多いと推測される。

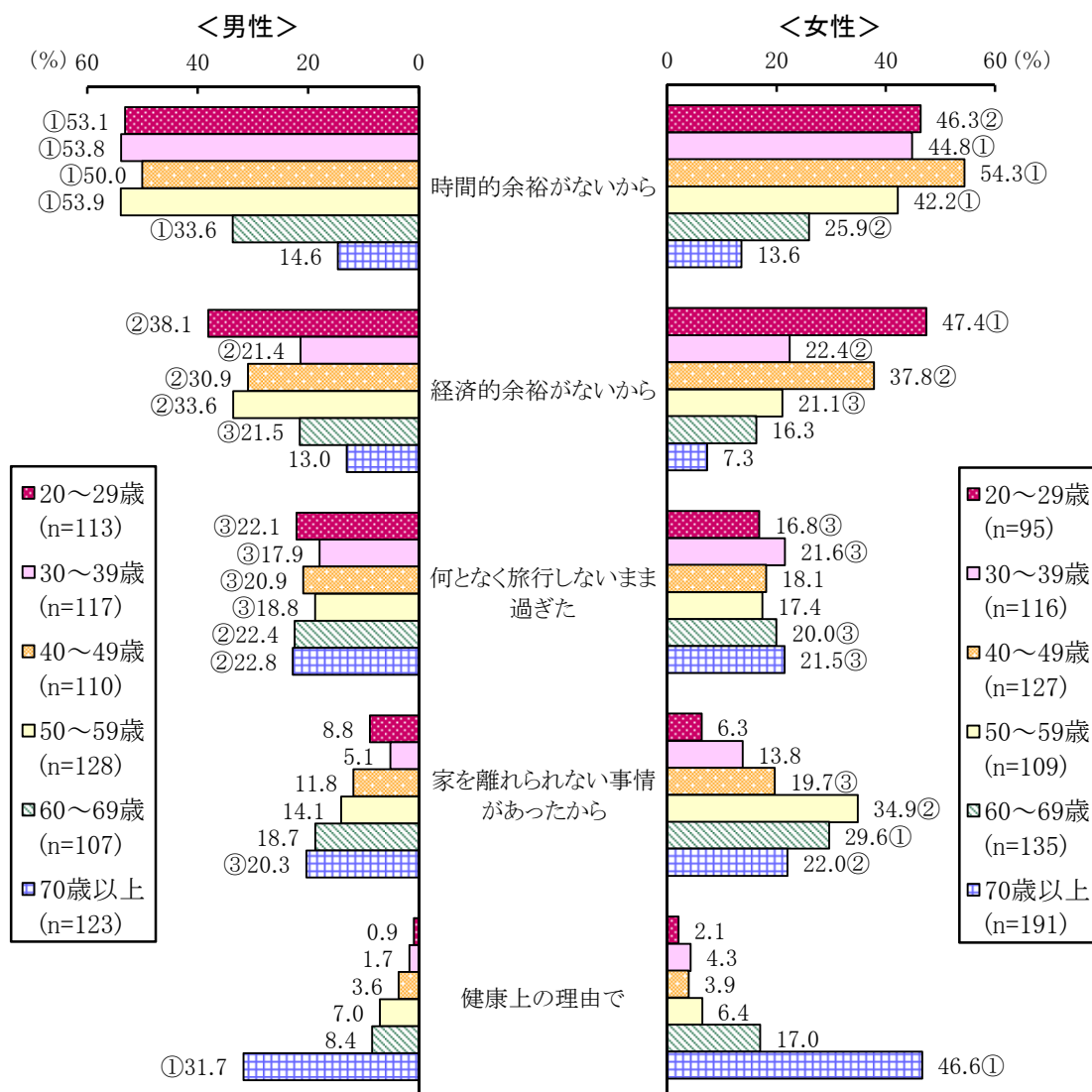
また、「家を離れられない事情があったから」という理由をあげる人は、女性50～69歳では3割前後、女性70歳以上、男性60歳以上では2割程度いる。図表2でみたように、家族の介護を担っている人はこれらの年代で多い。そのことをふまえると、家族の介護という「事情」で家を離れられないことが旅行できない理由になっている人も、中高年層を中心に少なからずいると考えられる。

以上のように、自身や家族に介護が必要であることは旅行しない一因になりうる。介護される人・介護する人が旅行をためらう背景には、旅行時の移動や入浴・排泄が難しいことなどさまざまな点に対する不安がある。今後、要介護者等のさらなる増加

が見込まれる中、そうした不安や困難を取り除き旅行しやすい環境を整えることが、一層必要となるだろう。

介護を必要とする人やその家族が具体的に旅行に対してどのような不安を感じ、実際に旅行した際にどのような困難に直面するのか、そしてそれらの不安や困難を軽減するためには何が課題となっているのか、などについては冒頭で紹介した調査結果を参照されたい。

図表4 国内観光旅行をおこなわなかった理由(性・年代別)



注1：泊まりがけの国内観光旅行をおこなわなかった人が回答。うち20歳以上の人の結果を掲載。  
 注2：全体で5位以内にあがった項目のみを掲載。その他の8項目はいずれも1割に満たない。  
 注3：丸数字①②③は男女各年代においてそれぞれ1・2・3位であることを示す。  
 資料：日本観光振興協会『平成23年度版 観光の実態と志向—第30回 国民の観光に関する動向調査—』  
 2012年

(みずの えいこ 上席主任研究員)